

令和6年度 江戸川区立篠崎小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○よく考える子 ○心豊かな子 ○じょうぶな子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○確かな学力をたくむ学校 ○豊かな心と健やかな体をたくむ学校 ○保護者・地域から信頼される学校 ○基礎・基本を身に付け、自らすすんで問題を追究し、深く考え判断する子供 ○感性に富み、ともに認め合い、思いやりがあり、奉仕の心を行動にうつせる子供 ○心も体も健康で明るく、やり抜く心体力があり、すすんで運動に取り組む子供 ○自発性と英知を結集し、児童一人一人を大切に愛情深く関わる教師 ○社会人として、教育公務員として、組織的に学校運営に関わる教師
前年度までの本校の現状	成果	課題	ユニバーサルデザインの視点や個に応じた支援をすることで、学習活動における教職員の組織的な取組ができた。校舎改築に伴い、運動スペースが制限されたが、体育館遊びや放課後遊びを利用して運動する児童が多く、今年度の新校舎での運動意欲向上につなげることができた。
課題	学力向上について個の課題を分析し、児童一人一人に合った指導方法を確立するために、教職員で共通理解を図る。教職員の働き方改革を更に推進し、業務を効率化して、活力と愛情をもって児童と向き合う時間を作る。		

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案			
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント				
学力の向上	<p><学力の向上></p> <p>・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実</p>	<p>(1) 教員の指導力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> UDLの視点から、どの教科においても授業中の学習過程を可視化する。 授業の導入で、前単元や前時の学習内容を想起させる。 各教科等の各単元で問題解決型の学習を計画し実践する。 (2) 基礎学力の定着 週に1度の朝のモジュール学習で、確実に「ドリルパーク」に取り組む。国語と算数について隔週で取り組む。 授業で一人一台端末を活用し、情報活用能力を生かす。 朝学習や放課後補習などを通して、一人一人の学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価児童アンケート「授業は、わかりやすいですか。」95%以上 	A	A	A	学校評価児童アンケート「授業は、わかりやすいですか」肯定的回答90%以上	A	学校関係者評価アンケート「本校の教員は、児童の意欲を高め、わかりやすい授業を行っている。」肯定的回答95%以上	A	<ul style="list-style-type: none"> 2学期末に個人面談を行い、丁寧に学習や生活について伝えた。面談したことにより2学期の通知表の総合所見に代えることにした。 	A	学校評価児童アンケート「授業は、わかりやすいですか。」肯定的回答95%以上	<ul style="list-style-type: none"> 次年度は、7月末から8月初めに個人面談を行い、1学期の総合所見とする。2学期も個人面談を行い、総合所見とする。具体的に評価基準を示して個人面談を実施し、通知表の総合所見は3学期のみとする。 			
			<ul style="list-style-type: none"> 毎時間、学習の流れについてUDLの視点からどの教科においても授業中の学習過程を可視化するための提示を行っている。 	B	B	B				A	<ul style="list-style-type: none"> 学習過程の掲示物を黒板に貼っている。 学習の流れを可視化できる掲示物を作成して、使用している。 視覚的にわかりやすいように、絵や図で指示をしている。 8割程度、授業UDLの視点から学習過程の可視化を図るだけでなく、UDLの視点でオプションを選択できるようにしてきた。 「課題」などのカードを生かして学習過程を示している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価評価保護者アンケート「本校の教員は、授業の中で個に応じた指導をしている。」肯定的回答75% 子供たちが楽しいと思える授業にしてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も掲示する物を精選する。 授業ユニバーサルデザイン（UD）を継続して取り組んでいく。 様々な教科で実践している授業UDと学びのユニバーサルデザイン（UDL）を校内研修やOJTで共有し、授業実践につなげる。 今後も視覚的な提示、学習の流れの提示、絵や図などの学習の流れを可視化できるようにしていく。 ワークシートを何種類か用意する。 			
			<ul style="list-style-type: none"> ワークテストを習熟度に合わせ、正答率を5割、7割、8割とする。 	A	A	A	教員評価アンケート「ワークテストを習熟度に合わせ、正答率を5割、7割、8割とする。」90%以上			A	<ul style="list-style-type: none"> D層について、正答率を上げる。 C層とA層の正答率の差が大きくなっている。 		<ul style="list-style-type: none"> 授業に付いていけないのはつらいので、基礎学力を身に付けさせてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> D層に合わせた学習の補習を行う。 クラブと委員会のない木曜日に月3回計画する。 教科書とミライシード、教材室の教具を中心に取り組む。 1年生は6月から火曜日の6時間目にあたる時間から補習を始める。また、2年生は4月と5月の火曜日の6校時にあたる時間で行う。 			
			<ul style="list-style-type: none"> 毎時間、問題解決型の学習をしていますか。 	A	A	A	教員評価アンケート「毎時間、問題解決型の学習をしていますか。」90%以上	A	学校関係者評価アンケート「本校の教員は、授業の中での個に応じた指導をしている。」肯定的回答95%以上	A	<ul style="list-style-type: none"> 理科、算数、（国語の一部単元）では実施する。 児童に問題解決の見通しをもたせて、考えさせている。 	A	学校関係者評価アンケート「本校の教員は、授業の中での個に応じた指導をしている。」肯定的回答95%以上	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で問題解決型の学習を行っていく。 			
			<ul style="list-style-type: none"> 毎学期のスタディウイークにてドリルパークを全員実施。 	A	A	A	教員評価アンケート「毎学期のスタディウイークにてドリルパークを全員実施」90%以上			A	<ul style="list-style-type: none"> タブレット学習は、意欲的に臨んでいる。 チェックリストを作成し、児童一人一人の実施状況を把握できるようにしている。 studyweekの期間に、児童の習熟を把握できた。 チェックリストを作成し、児童一人一人の実施状況を把握できるようにしている。 学力向上部で作成した個票を活用している。 1学期と2学期のドリルパークの活用率を比べると、解答ドリル数・取組問題数・正答率が大幅に上回り、児童の学習意欲の向上が感じられた。 			<ul style="list-style-type: none"> studyweekは毎学期実施し、studyweek学習カードの内容を、CDTテストと2月の東京BD結果（4、5年は学力状況調査）の個票を反映させた学習カードを作成し、未修得箇所を重点的に取組むようにする。 			
			<ul style="list-style-type: none"> CDTテスト、ベーシックドリルの結果に応じた個別のミライシードの課題を与える。篠小タイムにおけるドリルパークの活用率100%。 	C	C	C	1学期の実施では、学級ごとのばらつきがあった。9月より全学級で実施中。	A	学校関係者評価アンケート「本校の教員は、授業で一人一台端末を活用し、情報活用能力を生かしている。」肯定的回答95%以上	A	<ul style="list-style-type: none"> タブレットが配られてからは、ドリルパークに取り組んでいる。 ドリルパーク実施後、シートを回収し、実施状況を把握して、次の指導に生かしている。 個票を基に課題を出すことができている。 算数と国語で実施している。 篠小タイムでは、100%活用している。 国語の回は、YOMUよむワークシートに取り組む時間もある。 ドリルパーク50%、よむYOMUワークシート50%で実施している。 	A	学校関係者評価アンケート「本校の教員は、授業で一人一台端末を活用し、情報活用能力を生かしている。」肯定的回答95%以上	<ul style="list-style-type: none"> 4月の東京ベーシックドリル診断テストの結果を基に、2、3、6年生は学習カード（個票）を作成し、毎週水曜朝の篠小タイムや自主学習で活用する。4、5年生は「江戸川区学力定着度調査」の結果を基に「studyweek」でも活用できる学習カードを作成する。 4月初めに東京ベーシックドリル診断テストを行う。 			
			<ul style="list-style-type: none"> 月2回以上の放課後補習の実施。 	A	B	B	毎回実施しているが、いつも全員に合致しているとは言えず、適切な内容を与えているとは言えなかった。	A	学校関係者評価アンケート「本校の教員は、朝学習・放課後補習などを通して、一人一人の学力の定着を図っている。」肯定的回答96%以上	A	<ul style="list-style-type: none"> 放課後補習は各学年実施しているが、児童数が定員に満たないことがあった。 	A	学校関係者評価アンケート「本校の教員は、朝学習・放課後補習などを通して、一人一人の学力の定着を図っている。」肯定的回答96%以上	<ul style="list-style-type: none"> C層児童の学習内容と達成状況を担任が確認して、確実に業者と連携を図る。 			
					<p>(3) 学習習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学年×10分」の家庭学習の実施を、保護者へも周知・依頼する。 週1回の全校一斉朝学習の実施 江戸川区の「えとダブルール」の徹底について、個別に指導が必要な児童には、保護者へ連絡、連携して指導する。また、篠崎小の「学校ルール」を受けての「家庭ルール」を各家庭で守らせていくために、学校での指導と併せて家庭で確認するように生活振り返り週間の項目に入れていく。 5月睡眠振り返り週間、2学期、3学期の生活振り返り週間を活用して規則正しい生活習慣の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価児童アンケート「学校の宿題などの家庭学習を、学年×10分程度、きちんとやっていますか。」の肯定的な回答90%以上 	B	B	B	学校評価児童アンケート「学校の宿題などの家庭学習を、学年×10分程度、きちんとやっていますか。」の肯定的な回答75%以上	B	学校関係者評価アンケート「本校の児童は、家庭学習（学年×10分以上）の習慣が身についている。」肯定的回答85%以上	A	<ul style="list-style-type: none"> 10分の家庭学習は、90%確保できている。 学年×10分の学習になるように、毎日の宿題をし調整している。 宿題は毎日出している。 6年生は宿題だけでなく60分間取り組む内容でないで、自分で考えて学習しないといけないが、60分間取り組めていない児童が多い。 	B	学校評価児童アンケート「学校の宿題などの家庭学習を学年×10分程度きちんとやっていますか。」肯定的回答80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、家庭学習の内容をTeamsで知らせ、家庭の協力を図る。
						<ul style="list-style-type: none"> 毎学期の「健康ふりかえりカード」における学年×10分の学習率90%以上 	B	B	B	毎学期の「健康ふりかえりカード」における学年×10分の学習率75%						<ul style="list-style-type: none"> 学校評価保護者アンケート「お子さんは、家庭学習（学年×10分以上）の習慣が身につけている。」肯定的回答71% 	<ul style="list-style-type: none"> ミライシードの活用 学年×10分は継続して取組ませる。4月の東京BDの結果を基に学習カード（個票）を作成するので、宿題と自主学習に学習カードを活用し、児童が自分に適した学習内容を自主決定して取り組ませる。 健康振り返りカードには、家庭で勉強をする（Oできた、×できなかった）の二択のみの回答になっているので、取り組んだ学習時間を書き込む欄をつくり、家庭学習に取組む意識付けにつなげる。 毎週水曜日に、各自に沿った内容のドリルパークを行う。

			<ul style="list-style-type: none"> 国の学力調査「授業時間以外の勉強時間」→6年児童1時間以上の回答割合80%以上 区の定着度調査→4、5年児童、30分以上の回答割合80%以上達成 	B	B	B	国の学力調査「授業時間外の勉強時間」6年1時間以上の回答割合60%以上			A	<ul style="list-style-type: none"> 習い事等で、宿題以外の学習時間を確保できる児童が少ない。 塾などで学習している児童は多い。家庭で1時間以上学習している児童は1割程度にとどまる。 			<ul style="list-style-type: none"> ドリルパークの発展問題や自主学習の課題を提示することで、自発的な学習姿勢をつくる。
				C	C	C	区の定着度調査→4、5年児童、30分以上の回答割合57%以上達成			A	<ul style="list-style-type: none"> 江戸川区学習定着度調査、江戸川区学力調査、全国学力・学習状況調査、CDTテストと学習に関する調査が多い。 			<ul style="list-style-type: none"> 2年、3年のみCDTテストを4月に実施する。
	○読書科の更なる充実・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> 探究的活動の充実として総合的な学習の時間を中心に、各教科等の学習と関連させた探究的活動を年間指導計画に位置付ける。その際、様々な分類の書籍を読めるよう配慮する。 読書活動の充実のために、始業前の15分間の朝読書を週2回を基本に実施する。 異学年での読み聞かせ交流、読書ハイキング（教員の読み聞かせ会）を実施する。 学校応援団（保護者ボランティア）による読み聞かせを実施する。 図書委員会の児童による本の紹介する。 図書館司書、学校応援団による定期的な蔵書点検や学校図書館内掲示物整備を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 探究的な学習として読書科が関わる学習活動における成果物（音声言語を含む）を毎学期作成する。 「読書や読書活動を進んで行っていますか。」の肯定的な回答80%以上 下学年は3分類以上、上学年は5分類以上の書籍を、読書カードに記録している児童が80%以上。 異学年での読み聞かせ交流を学期に1回行う。 学校応援団による読み聞かせを学期に2回実施。 図書委員会の児童によるほんの紹介を学期に1回実施。 	C	B	B	毎学期作成中	A	学校関係者評価アンケート「本校は、本が好きな児童を育てるとともに、資料を活用して探求的に調べる活動を大切にしている。」肯定的回答95%以上	A	<ul style="list-style-type: none"> 一学期は作成していない学年がある。 2階本の広場や図書室の充実のおかげで、毎回の図書時間は、子供たちの大好きな時間がある。 5年は2学期はお米について、3学期は雪国について成果物を作成する予定。 6年は2学期はSDGsについて調べ、まとめている。 	A	学校関係者評価アンケート「本校は、本が好きな児童を育てるとともに、資料を活用して探求的に調べる活動を大切にしている。」肯定的回答95%以上	<ul style="list-style-type: none"> 年間2つの成果物を作成する。
				B	B	B	学校評価児童アンケート「読書や読書活動を進んで行っていますか。」の肯定的な回答75%以上			A	<ul style="list-style-type: none"> 図書室の畳の部屋に8人は少ない。 	B	学校評価児童アンケート「読書や読書活動をすすんで行っていますか。」肯定的回答82%	<ul style="list-style-type: none"> 学年に応じて8～12人までとする。 畳の部屋は司書も活用しながら読み聞かせ中心とする。
				A	A	A	学校評価教員アンケート80%達成			B	<ul style="list-style-type: none"> 物語に偏っている。 			<ul style="list-style-type: none"> 各教科の学習内容と併せて朝読書の内容を計画する。 団体貸し出しを毎学期利用する。 図書ボランティアに貸し出し選書を依頼していく。
				A	A	A	1学期は7月に実施。2学期は11月にそれぞれ縦割り班で実施。			A	<ul style="list-style-type: none"> 縦割り班活動で読み聞かせを実施している。 読み聞かせに向けて選書から練習に取り組んでいる。 			<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、1年生から6年生縦割り班の活動を行っていく。 縦割り班の活動をなかよし班活動と呼ぶこととする。
				A	A	A	1学期は6月と7月に実施。2学期は9～12月で実施。			A	<ul style="list-style-type: none"> 各学期、1学年2回ずつ実施できた。児童は、とても楽しみにしていた。 			<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続していく。 読み聞かせボランティアをしてくださる方が減っているため、保護者会で呼びかけていく。
					A	A	1学期に実施なし。2学期以降実施する。			A	<ul style="list-style-type: none"> 12月に3回読み聞かせを実施。2学期は、本の紹介ポップも作成した。 主に低学年中心に、読み聞かせを楽しんでいた。校庭使用の学年が限定されているため、読み聞かせに参加できる学年も限定された。それにより、人数が多くなりすぎず、落ち着いて読み聞かせを聞くことが出来ていた。 			<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続していく。 図書委員の児童が自ら考え、読書推進活動に取り組めるようにする。
	○個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> 毎週1回以上の全校運動遊びの実施 学期に1回のなわ跳びweekの実施 持久走旬間の実施 持久走大会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学期始めの健康振り返りカード「体を動かして遊ぶ」の肯定的回答90%以上 「体育や校庭遊びの日やクラス遊びなど、体をつかって運動していますか。」90%以上 持久走大会参加者の完走率を100%達成する 	A	A	A	学期始めの健康振り返りカード「体を動かして遊ぶ」の肯定的回答85%以上	A	学校関係者評価アンケート「本校は、休み時間に校庭でのびのびと遊ぶ工夫をしたり、毎週クラス遊びの機会を設けて、児童の体力向上を図っている。」肯定的回答95%以上	A	<ul style="list-style-type: none"> なわとび月間や持久走月間5分間は全員共通で取り組んだ。 体育館や校庭で運動遊びに取り組んだ。 縦割り班遊びも行った。 	A	学校関係者評価アンケート「本校は、休み時間に校庭でのびのびと遊ぶ工夫をしたり、毎週クラス遊びの機会を設けて、児童の体力向上を図っている。」肯定的回答95%以上	<ul style="list-style-type: none"> なわ跳びも持久走も曲を流して休み時間に5分間行う。 委員会活動は校庭遊びがない時間に行う。
	体力の向上			A	A	A	「体育や体育館遊びの日や放課後遊びなど、体を使って運動していますか。」95%以上	A	学校関係者評価アンケート「本校は、毎学期、全校での「なわ跳びweek」を行っている。」肯定的回答95%以上	A	<ul style="list-style-type: none"> なわ跳びに取り組んだ。 なわ跳びの出前授業もあり、2学期は1学期よりも積極的に取り組めた。 なわ跳びweekには体育の最初に縄跳びを取り入れてスキル向上と体力向上を図っている。 	A	学校関係者評価アンケート「体育や校庭遊びやクラス遊びなど、体を使って運動していますか。」毎学期肯定的回答91%	<ul style="list-style-type: none"> 体育委員会やなわ跳びが得意な児童をお手本で紹介し、意欲付けを図る。 めあてごとに、めあてが同じ3、4人程度のグループを作り、お互いの技を見合ったり、アドバイスし合うようにさせる。 年度当初に体育委員やなわ跳びの得意な6年生児童に声を掛け、意識づけをさせてなわ跳び運動で手本としてみせる。 5分間音楽を流す。
							9月前に実施なし。11月実施予定			A	<ul style="list-style-type: none"> 音楽に合わせて走れる。 暑い時期の水泳学習では、日陰の活用工夫をすることで実施した。 年間指導計画を作成の際、寒い時期の跳び箱運動や暑い時期の水泳について指導計画を検討及び調整する。 	A	持久走大会参加者完走率100%	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き音楽を5分間流す。 水泳は6、7月で4回、9月に1回の計5回実施。 2時間授業（90分）中、着替え等を含めて60～70分で行い、残り時間を他の教科の学習にあてる。
				B	B	B	毎週クラス遊びをクラスで担任が入って行う。			B	<ul style="list-style-type: none"> 一緒にやることもあれば、児童管理をすることもある。 	B	学校評価保護者アンケート「本校は、休み時間に校庭でのびのびと遊ぶ工夫をしたり、毎週クラス遊びの機会を設けて、児童の体力向上を図っている」肯定的回答74%	<ul style="list-style-type: none"> 看護当番の日以外でクラス遊びを行う。
	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> 理解教育実施。 特別支援教室巡回指導教員と通常の学級担任との毎週の連携。特別支援教室専門員の巡回指導と通常の学級の観察記録の活用。 日本語指導員と担任との連携 管理職による授業観察と指導を毎学期実施し、授業改善を促進する。 専門家を招いた研修会を年間1回以上実施する。 毎週木曜日の特別支援教育委員会ミニ会議で、個別の支援を検討。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年での理解教育実施。 学校評価児童アンケート「かえて教室のことを知っていますか。（がんばっている子を応援していますか。）」の肯定的回答90%以上 学校評価児童アンケート「かえて教室のことを知っていますか。（がんばっている子を応援していますか。）」の肯定的回答85%以上 	B	B	B	該当児童がいる学年を中心に実施			A	<ul style="list-style-type: none"> 該当児童がいる学年を中心に実施した。 適宜実施している。 低学年を中心に行っている。 	B		<ul style="list-style-type: none"> 1年生でかえて教室の巡回指導員が説明をすることを続けていく。 中、高学年での理解教育も巡回指導員と担任が協力して行う。
				A	B	B	学校評価児童アンケート「本校は、かえて教室があることを理解させ、個々の児童に応じた特別支援教育を実施し、お互いの違いを理解した指導をしている。」肯定的回答95%以上	A	学校関係者評価アンケート「本校は、かえて教室があることを理解させ、個々の児童に応じた特別支援教育を実施し、お互いの違いを理解した指導をしている。」肯定的回答95%以上	A	<ul style="list-style-type: none"> 「行ってきます」「いってらっしゃい」、「おかえり」という声が聞こえる。 	A	学校関係者評価アンケート「本校は、かえて教室があることを理解させ、個々の児童に応じた特別支援教育を実施し、お互いの違いを理解した指導をしている。」肯定的回答95%以上	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めにかえて教室の先生と担任が通室児童についての情報共有をしっかり行ったうえで、担任からもかえて教室のことや通室している児童のことを学級全体に話して、一人一人に必要な教育を行うことを理解させる。

共生社会の実現に向けた教育の推進		<ul style="list-style-type: none"> 学校評価児童アンケート「自分と友達のそれぞれの良さやちがいに気づき、協力し合っていますか。」の肯定的回答95%以上 	B	B	B	学校評価児童アンケート「自分と友達のそれぞれの良さやちがいに気づき、協力し合っていますか。」の肯定的回答93%以上			A	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の「よいこと見つけ」では、全児童のよいところは挙がった。 	B	学校評価児童アンケート「自分と友達のそれぞれの良さやちがいに気づき、協力し合っていますか。」の肯定的回答93%以上	<ul style="list-style-type: none"> 教師が一人一人の小さい成長を認めていくことを全ての児童に行う。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 連携型個別指導計画を常に更新し、活用する。 	A	A	A	毎月中旬と月末に連携型個別指導計画の出来事を入力している。			A	<ul style="list-style-type: none"> 毎月入力を中旬と下旬に呼び掛けているが、100%ではない。 			<ul style="list-style-type: none"> 各学年の特別支援教育委員が入力の確認と未入力に声を掛け確実に実施する。 木曜日の16:30～行われているミニ校内委員会で内容の確認と支援の検討を続ける。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育コーディネーターと特別支援教室専門員と心理士と巡回指導教員との連携を密にして、指導方法の共通理解を図る。 	A	A	A	エンカレッジルームでの支援や絵カード、がんばりカードを活用することで、児童に参加できる率が増加している。			A	<ul style="list-style-type: none"> 1日の予定を一緒に確認し、参加に向けて声をかけるようにする。 エンカレッジルームを利用することで登校できたり、参加できる活動には参加したりする児童が増えた。 			<ul style="list-style-type: none"> 保護者や児童とエンカレッジルームの利用の約束やエンカレッジで取り組むことを確認する。 エンカレッジルームを利用している児童に対しては必ず1日の予定を確認できるように予定を書く用紙に担任が書いておく。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育コーディネーターと巡回指導教員との連携を密にして、指導方法の共通理解を図る。 	A	A	A	毎週木曜日に特別支援教育委員会でミニ会議を開き、児童の実態共有や支援・手立ての検討を行っている。			A	<ul style="list-style-type: none"> 情報交換ができた。 コーディネーターの先生方中心に実施している。 木曜日の時間に検討や判定会議を行っている。 			<ul style="list-style-type: none"> ミニ会議の前に、1枚のシートに共有事項をまとめておく。 ミニ会議の検討内容の計画を学期はじめに立てて、抜けがないようにする。 	
		○エンカレッジルームの活用促進	<ul style="list-style-type: none"> エンカレッジルームの保護者への理解啓発 エンカレッジルームと職員室での待機に、空き時間の教員を配置して、児童対応を確実にする。 	A	B	B	年度終わりに実施予定			A	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めの保護者会で説明をした。 	B	年度終わりに実施予定	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、年度初め、年度終わりの全学年の保護者会でエンカレッジルーム「たんぼほルーム」を紹介していく。
			<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート「本校は、個々の児童に応じた特別支援教育を実施し、スクールカウンセラーによる教育相談や、巡回指導を実施している。」90%以上 	A	A	A	学校評価アンケート「本校は、個々の児童に応じた特別支援教育を実施し、スクールカウンセラーによる教育相談や、巡回指導を実施している。」90%以上	A	学校関係者評価アンケート「本校は、児童をよく理解し、児童が誰にでも相談できることを常に呼びかけている。」肯定的回答95%以上	A	<ul style="list-style-type: none"> SSW（スクールソーシャルワーカー）による研修をきっかけに、「教員とSSWが繋がる→SSWと保護者を繋げる」ということができた。 担任以外でも前の担任や同性の先生など話しやすい先生に相談してよいことを日々伝えている。 	A	学校関係者評価アンケート「本校は、児童をよく理解し、児童が誰にでも相談できることを常に呼びかけている。」肯定的回答95%以上	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めの保護者会でエンカレッジルームを含め、SC（スクールカウンセラー）やSSW（スクールソーシャルワーカー）のことも紹介する。 校内の大人誰にでも相談できることを引き続き、伝えていく。
		○副籍交流及び共同学習の実施充実	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画に基づいた副籍交流及び共同学習の実施 学校行事への参加の推進 	A	A	A	5人に実施			A	<ul style="list-style-type: none"> 鹿本学園、葛飾盲学校、合わせて5名と学期に1回は交流を行っている。 			<ul style="list-style-type: none"> 年度初めに相談してできる限り精力的に行う。
			<ul style="list-style-type: none"> 文書交流は毎月実施。 	A	A	A	毎月定期的に学校だよりと学年だよりを交換日で互いに送付			A	<ul style="list-style-type: none"> 鹿本学園、葛飾盲学校、大塚ろう学校城東分教室と互いに学校だよりや学年だよりを送付している。 	A	毎月定期的に学校だよりと学年だよりを交換日で互いに送付	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、学校だより、学年だよりの文書交流を毎月実施する。
			<ul style="list-style-type: none"> 運動会、音楽会などへの招待 	A	A	A	運動会の招待状を送付し、参加児童への対応を行った。音楽会も同様に行う予定			A	<ul style="list-style-type: none"> 鹿本学園、葛飾盲学校、大塚ろう学校城東分教室へ運動会や音楽会の招待状を送り、参加を呼び掛けている。 運動会のリハーサルや音楽会に参加した。 	A	音楽会の招待状を送付し、参加児童への対応を行った。	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、運動会や展覧会など行事へ招待する。
		○豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> いつでもどこでも誰にでも挨拶ができる児童の育成 	A	B	B		A	学校関係者評価アンケート「本校は、「元気な挨拶、丁寧な言葉遣い」を重点に、「いつでも・だれにでも」さわやかな挨拶と返事が自分からできる子を育てている。」肯定的回答95%以上	A	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝、教室に入って来る時に、挨拶はしているが、声が小さい児童はいる。 各学級、工夫して挨拶運動に取り組むことができた。正門で挨拶をしたり、校舎内の廊下で挨拶をしたりする運動をした。 廊下ですれ違った先生などに自分から挨拶できる児童は増えたが、授業前後の挨拶に元気がない。 声が小さい児童がいる。 	A	学校関係者評価アンケート「本校は、「元気な挨拶、丁寧な言葉遣い」を重点に、「いつでも・だれにでも」さわやかな挨拶と返事が自分からできる子を育てている。」肯定的回答95%以上	<ul style="list-style-type: none"> 授業前後の挨拶を徹底する。 朝登校してきたら、教室にランドセルを置いて、たすきをつけて2～4階に1～2名ずつであいさつ運動を行う。 あいさつのレベルをさらに表示してめざすものを明確にする。
			<ul style="list-style-type: none"> 呼名に対して、必ず返事をする。 	A	B	B				A	<ul style="list-style-type: none"> 返事はしている。 返事をするよう指導している。 呼名された際に返事をするを意識させられていない。 	B	学校評価保護者アンケート「本校は、「元気な挨拶、丁寧な言葉遣い」を重点に、「いつでも、どこでも、だれにでも」さわやかな挨拶と返事が自分からできる子を育てている」肯定的回答78%	<ul style="list-style-type: none"> 専科と担任は、返事ができている児童を認めて、全体が返事できるように意識づける。 授業中、呼名された際に返事をするを、全教員で指導していく。 学校南西角と南東角の信号の所に看護当番が行ってあいさつを促す。 時々、他の旗振りの所へ確認、あいさつを促す。
			<ul style="list-style-type: none"> 「挨拶ができる」アンケート肯定的90%以上 	A	A	A	「挨拶ができる」アンケート肯定的90%以上				<ul style="list-style-type: none"> 全校朝会、教室での朝の挨拶は、全員が行うが、その他の日常のどの場面でも挨拶ができているわけではない。 	A	学校評価児童アンケート「学校内や登下校の時に、先生やお客様、出会う人、友達と、「いつでも・どこでも・だれとでも」さわやかな挨拶と返事を、自分からしていますか。」肯定的回答89%	<ul style="list-style-type: none"> あいさつの声の大きさを実感させる。 よいあいさつを教員がそれぞれの場所で認めていく。 外部の方がいらしたときの反応をよく見ていくことでも成果を図っていく。
		<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート「自分と友達のそれぞれの良さや違いに気づき、協力し合っていますか。」90%以上 	A	A	A	学校評価児童アンケート「自分と友達のそれぞれの良さや違いに気づき、協力し合っていますか。」90%以上				<ul style="list-style-type: none"> 子供同士でよいところを見つけれふれあい月間の取り組みでは、児童全員のよいところが出されている。 人権の花運動に全校児童で取り組み、水をあげ、育てた。 	A	学校評価児童アンケート「自分と友達のそれぞれの良さや違いに気づき、協力し合っていますか。」93%	<ul style="list-style-type: none"> 教師が一人一人の子供の実態から伸びたところを認めることを確実に行うことで、子供同士ができるようにする。 	

不登校・いじめ対応の充実		・委員会活動や係・当番活動、異学年交流などの充実	・児童アンケート「縦割り班遊びや読み聞かせ、委員会、クラブ活動等違う学年で関り合う活動では、思いやりの心もち、仲良く取り組んでいますか。」90%以上	A	A	A	児童アンケート「縦割りの班遊びや読み聞かせ、委員会、クラブ活動等違う学年で関り合う活動では、思いやりの心もち、仲良く取り組んでいますか。」94%			A	・各クラブの児童人数に偏りがあります。アートクラブ…図工室超満席+材料準備、十分な活動時間の確保ができていない。 ・縦割り班活動の活動時間が短い。 ・3日間、夏休みの作品展を実施したが、保護者の来校が少なかった。 ・5月上旬の全校選足に間に合うように縦割り班名簿を作成することが大変だった。配慮児童が重なっていないか、兄弟関係が同じ班にいないかなどの確認が不十分だった。もっと多くの目で確認が必要。また、縦割り班が発足してすぐの全校選足で班長が指揮を執って班をまとめるのは難しい。 ・縦割り班は1クラスの中に3班あるが、一緒に活動することが多かった。 ・縦割り班の話し合いは高学年だけで行うと良い。	A	児童アンケート「縦割りの班遊びや読み聞かせ、委員会、クラブ活動等違う学年で関り合う活動では、思いやりの心もち、仲良く取り組んでいますか。」93%	・希望クラブの調査で、第4、5希望まで書くなどして、各クラブの人数を調整する。 ・各クラブごとの人数を事前に確認してから決定する。その上で児童に調査を行う。 ・今年度同様に夏休み作品展を実施するが、1週間で実施し、保護者鑑賞日は水、木の2日間とする。金曜日に作品を持ち帰る。 ・4月1週目から縦割り班名簿を作成する。6年から1年の順で入れて2週目に確認する。 ・全校選足は自己紹介は1つの班で、選足での遊びは3つの班で行う。 ・縦割り班の話し合いは、班長と教員が放課後（月・火・金の15:05-15:20）で行う。全校選足は時間のかからないゲームを用意する。
	Hyper-QUの活用	・Hyper-QUテストの児童の実態把握に基づいた指導の推進	・事前に内容理解の研修会を実施する。 ・結果取得後の内容について振り返りをして学級経営計画を更新する。	A	A	A	Hyper-QUテストの児童の実態把握に基づいた指導の推進100%実施			A	・実施の時期と振り返りの時期の間の日にちが空きすぎている。 ・Hyper-QUテストの結果をもとに、指導している。 ・Hyper-QUのフィードバックがどうしても遅く、生かし切れていない。			・L-GATEを活用して日々の様子に目を配ることで、学級の中で不安や適応に困難がある児童を早期に発見し、対応する。
	○教育相談の強化	・スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）との連携強化 ・SCによる5年生全員面談実施。 ・保護者に対して担任以外の教職員との個人面談実施。 ・誰にでも相談できることを常に呼びかける。	・5年生全員が1学期に面接官らと必要に応じたスクールカウンセラーと全員が面談し、必要に応じてSSWなどを活用した。 ・児童アンケート「悩みを聞いてくれますか。」90%以上 ・生活指導の徹底 ・いじめ初期対応、未然防止により、解消率100%	A	A	A	6月までに実施済	A	学校関係者評価アンケート「保護者会・個人面談（担任・専科教員など）、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの面談等・保護者の相談に対応している。」肯定的回答95%以上	A	・不登校児童や特別支援が必要な児童などの保護者がSCやSSWにつなげられている。 ・夏季休業中にSSWを講師に研修を行い、研修したことを活用して保護者に働きかけ、相談機関としてつながる家庭が3つの学年であった。	A	学校関係者評価アンケート「保護者会・個人面談（担任・専科教員など）、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの面談等・保護者の相談に対応している。」肯定的回答95%以上	・今後も校内でSSWの活用を早期に検討し、早い段階からつなげていく。 ・担任と特別支援コーディネーター・管理職などとSSWが連携して対応していく。
				A	A	A	児童アンケート「悩みを聞いてくれますか」90%以上			A	・アンケートの結果を受けて対応した。 ・生活指導上の確認事項の見直しが必要。	A	児童アンケート「悩みを聞いてくれますか」91%	・今後もアンケートをとっていく。 ・悩みは大人誰にでも相談できることを指導していく。 ・水分補給は原則的に休み時間にしよう指導する。 ・給食の際、喫食中だけ、マスクを外して良い。→給食の配膳時は、マスクを着用する。に変更する。
学校（園）の地域社会に開かれた実現	○学校（園）ホームページの充実等	・各学年、専科で毎月3回以上日頃の教育活動の様子をホームページにて発信する。	・「学校だより・学年だより等で教育活動や児童の様子をお知らせしている。」90%以上 ・「ホームページ等で教育活動や児童の様子をお知らせしている。」月3回～4回以上更新、行事の更新を行っている。	A	A	A	「学校だより・学年だより・ホームページ等で教育活動や児童の様子をお知らせしている。」90%以上	A	学校関係者評価アンケート「学校だより・学年だより・ホームページ等で教育活動や児童の様子をお知らせしている。」肯定的回答95%以上	A	・学年だよりをHPに配信することができた。 ・学年だよりに行事のことなどを載せている。	A	学校関係者評価アンケート「学校だより・学年だより・ホームページ等で教育活動や児童の様子をお知らせしている。」肯定的回答95%以上	・毎月3回以上ホームページに各学年の学習や教育活動の様子を発信していく。 ・学年だよりに学習のねらいや様子を伝える。
	○学校（園）公開の実施・充実	・学校公開を年4回実施 ・保護者会を年3回実施 ・個人面談を年1回実施 ・新1年生説明会を実施	・学校評価保護者アンケート「保護者会、個人面談（担任・専科教員など）、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの面談等、保護者の相談に対応している。」肯定的回答90%	B	B	B	適宜実施中	A	学校関係者評価アンケート「保護者会・個人面談（担任・専科教員など）、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの面談等・保護者の相談に対応している。」肯定的回答95%以上	A	・12月までに学校公開を3回、保護者会は1回、個人面談は2回、新1年生保護者会は1回実施。 ・道徳地区公開講座、学校保健委員会を開催した。	A	学校評価保護者アンケート「本校は、保護者会・個人面談（担任・専科教員など）、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの面談等・保護者の相談に対応している。」肯定的回答91%	・次年度は学校公開を6、11、2月の3回、保護者会を4月、3月の2回、個人面談は7月、12月の2回、新1年生保護者会は6月の1回実施予定。
	○学校関係者評価の充実	・学校評議員会・地域教育推進会を毎学期実施。 ・児童、保護者、地域、教職員へのアンケート調査の実施	・学校評議員会を毎学期実施。地域教育推進会は2学期に実施。 ・年2回以上の実施。	B	B	B	適宜実施中				適宜実施中	A	11月に実施	・学校評議員会、地域教育推進会を計3回実施予定。学校関係者評価を中間と最終に行う。
○働き方改革の推進「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・月2回の定時退勤日の設定 ・各自が起案や実施案を丁寧に確認する。 ・校務分掌を機能的に運用し、各主任が計画的に進め、主任・主幹が計画的に進捗状況を確認。 ・教員の組織的な育成	・全教職員の超過勤務時間について、月4.5時間以内。	D	D	D	学校評価教職員アンケート「全教職員の超過勤務時間について、月4.5時間以内。」30%程度			D	・昨年度の超過勤務時間よりは減っている。ただし、月の超過勤務は4.5時間以内を目指していたが、達成はできなかった。 ・8月以外は一度も4.5時間以内に収まっていない。			・連絡事項は連絡掲示板等見ることを徹底する。 ・会議までに起案文書のポイントを主任が事前に示す。 ・学期ごとに反省を生かした次年度計画等を作成しておく。 ・1年生は5月末まで4校時、2年生は5校時とする。 ・各委員会や部会内では担当者と主任で検討する。	

			<ul style="list-style-type: none"> ・会議45分以内。 	C	C	C	企画会議を除く、数回の45分以内の会議時間達成。			D	<ul style="list-style-type: none"> ・会議時間は減ってきているものがある。延長するものもある。 ・内容によって、どうしても45分では終わらないことが多い。 ・夏休み最終週の会議や研修をできるだけなくす。学年の時間が必要である。 ・4月年度初めのスケジュールが過密。 			<ul style="list-style-type: none"> ・ABCライン会議と二部会や特別委員会を同日に実施しないようにする。 ・Bライン（生活指導・保健給食）と特別支援教育校内委員会の組み合わせによる負担が大きいため、組み合わせを検討したり、その他の業務を軽減したりする。 ・4月初めに、児童の安全にかかる内容は確実に行って共通認識をもつ。 ・学年会の時間をできるだけ確保する。 	
			<ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回以上のOJT研修の実施 	A	A	A	1学期4回実施 2学期4回実施予定			A	<ul style="list-style-type: none"> ・書写やQUの活用方法を学ぶことができた。 ・実施した。 ・すぐに実践できる指導法などをOJTで学べている。 			<ul style="list-style-type: none"> ・年度はじめに計画表を作成し、実施していく。 	
教育の展開 特色ある	○農園活動の充実 農園の活用を通して、植物栽培の体験などを充実させ、感性を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・理科や生活科、総合的な学習の時間等の指導計画に沿った栽培や観察を実施する。 ・全校朝会の校長講話で地域の自然についての関心を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価児童アンケート「農園では、水やりや草とりをしながら、草花や野菜を育てたり、昆虫を観察したりして、自然と親しんでいますか。」の肯定的回答90% 	B	A	A	学校評価児童アンケート「農園では、水やりや草とりをしながら、草花や野菜を育てたり、昆虫を観察したりして、自然と親しんでいますか。」の肯定的回答75%以上	A	学校関係者評価アンケート「本校は、学校農園やバタフライガーデンなどの活用をはじめ、自然に親しみ四季の変化を感じる活動により、豊かな感性を育てている。」肯定的回答95%以上		<ul style="list-style-type: none"> ・各学年で年間計画に沿って農園活動を行った。 ・農園ボランティアと区民農園利用者にチラシ配布し、広げた。 	A	学校評価児童アンケート「農園では、水やりや草とりをしながら、草花や野菜を育てたり、昆虫を観察したりして、自然と親しんでいますか。」の肯定的回答82%	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と保護者の農園ボランティアに年度初めに畑活用の年間計画を渡して協力を求める。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回の草取り、水まきをクラスごとに行い、栽培している。 		C	C	C	「毎月1回の草取り、水まきをクラスごとに行い、栽培している。」の肯定的回答56%			D	<ul style="list-style-type: none"> ・6月、7月は暑い。 ・時間が足りず、十分な活動ができなかった時がある。 ・農園を活用するよう意識している。 ・割り振られた日時に草取りをしている。水まきをしに行くことはない。 	A	学校評価保護者アンケート「本校は、学校農園やバタフライガーデンなどの活用をはじめ、自然に親しみ四季の変化を感じる活動により、豊かな完成を育てている。」肯定的回答93%	<ul style="list-style-type: none"> ・梅雨の時期の水まきは実施しない。 ・水まきと草取りについて、学級ごとに4月から月1回活動する計画表を示す。 	
	○地域の環境や伝統を生かした教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「えどがわ大好き・しのぎき大好き」をモットーに、生活科、社会科、総合的な学習の時間を中心に、体験活動や地域への訪問等の学習を年間指導計画に位置付け、地域を愛する子を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価児童アンケート「篠崎の町や江戸川区のことを学ぶ学習にすすんで取り組んでいますか。」の肯定的回答90% 	B	A	A	学校評価児童アンケート「篠崎の町や江戸川区のことを学ぶ学習にすすんで取り組んでいますか。」の肯定的回答80%	A	学校関係者評価アンケート「本校は、地域を愛する子を育てるために、篠崎や江戸川区のことを学ぶ学習や地域に出向く学習活動、地域の方を招いた学習活動を、学年に応じて実施している。」肯定的回答95%以上		<ul style="list-style-type: none"> ・1年 ボニーランド、6丁目公園 ・2年 竹と親しむ広場、明生苑Ⅱ、輝明生苑しのぎき、江戸川区子ども未来館、篠崎文化プラザ、小松川警察署篠崎駅前交番、ロップス、つりぼり金ちゃん、道具屋、京成バス江戸川営業所 ・3年 小松菜、お店巡り、名主屋敷、郷土資料館 ・4年 篠原風鈴、スケート教室 ・5年 和風づくり、区内社会科見学 ・6年 和風づくり、租税教室 	A	学校関係者評価アンケート「本校は、地域を愛する子を育てるために、篠崎や江戸川区のことを学ぶ学習や地域に出向く学習活動、地域の方を招いた学習活動を、学年に応じて実施している。」肯定的回答95%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度同様に地域教育を各学年計画し、地域を愛する児童を育む。 	
			<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価児童アンケート「ゲストティーチャーの授業や校外学習の体験的な学習は楽しいですか。」の肯定的回答90% 	A	A	A	学校評価児童アンケート「ゲストティーチャーの授業や校外学習の体験的な学習は楽しいですか。」の肯定的回答97%	A	学校関係者評価アンケート「本校は、ゲストティーチャーの授業（芸術鑑賞教室、環境、各学年での授業など）や校外学習の体験的な学習を行っている。」肯定的回答95%以上		<ul style="list-style-type: none"> ・マジック、味覚、バラスポーツ、ラグビー、芸術鑑賞、相撲、小松菜、命の学習等でゲストティーチャーを招いての体験的な学習ができた。 	A	学校関係者評価アンケート「本校は、ゲストティーチャーの授業（芸術鑑賞教室、環境、各学年での授業など）や校外学習の体験的な学習を行っている。」肯定的回答95%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年に応じた専門家をゲストティーチャーとして招いて、子供たちの興味関心を広げていく。 	
			<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事の紹介や地域の学習（生活・総合など）に進んで取り組んだ 		B	B	B				A	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容によって、地域のことを取り上げる。 ・土日に地域であった行事の紹介をしている。授業の中では、道徳でこの地域の魅力を考えて。 	A	学校評価保護者アンケート「本校は、地域を愛する子を育てるために、篠崎や江戸川区のことを学ぶ学習や地域に出向く学習活動、地域の方を招いた学習活動、凧揚げ大会など、学年に応じて実施している。」肯定的回答96%	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な地域の祭りなど学習の中で扱うことや全校朝会や学級指導を通して紹介し、参加を促す。
	○食育・健康教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学期はじめに生活習慣振り返りを行い、十分な睡眠をとる。 ・食育年間計画に沿って、食に関心をもちさせる。 ・給食を通して食育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「9時までにはねる。」「7時まで起きる。」の達成度80%以上達成 		C	C	C	健康生活振り返りカードの9-10までに1週間のうち5日早く寝たかの全体達成率60%程度 7時までには起きたかの全体達成率50%程度			D	<ul style="list-style-type: none"> ・寝る時間が遅い児童がいる。 ・睡眠時間は遅くなっている。 ・保護者や児童に話しても、習い事や趣味で睡眠時間が短くなる児童が多い。 		<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠時間を十分にとることを大切に。毎日同じ時刻に寝て起きるという睡眠のリズムも大切であることから指導を行う。 ・睡眠の指導について、毎学期健康ふりかえりカードと合わせて年間計画を立て、児童や保護者に指導啓発する機会を作る。（睡眠の具体的な必要性と具体的な早寝のための提案） 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・給食では、毎月、郷土料理と外国の料理を取り入れ、季節に応じた料理や行事食を提供し、食を通して文化や伝統を理解させている。 		A	A	A	毎月の献立表に世界の料理や日本の地域の料理を取り入れ、また、給食便りを発行して児童に周知している。			A	<ul style="list-style-type: none"> ・とても、おいしい。 ・献立表を毎日確認して、給食時間を楽しみにしている児童が多い。 ・いつも給食を通して様々な文化や料理を学ぶことができています。 ・献立紹介の紙を見ながら、料理の紹介を説明したり、食器の置き方を確認したりしている。 ・給食の黙食をやめる。 ・食事もマスクをしている。 	A		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、配膳中は全員マスクをつけるにしていける。 ・地場産物の小松菜を意識させる。 ・郷土料理、外国の料理を毎月継続していく。 ・旬のものを使い、季節を感じる給食とする。 	